

全学共通教育「日本語」・「日本事情」・「国際交流の扉を拓く」

1. 日本語：日本語 1～8、日本事情：日本事情 I～IV

平成 22 年度共通教育「日本語」「日本事情」では以下のクラスを開講した。

- ・ コーディネーター：三隅 友子

概要：

昨年引き続き新入学部学生が少なく、また受講者のほとんどが協定大学の交換留学生で、日本語能力試験 1 級以上の能力を持っていたため前期後期を通じて様々な学習活動が展開できた。交換留学の期間が 10 月から 9 月のため、前期と後期では受講者が入れ替わっている。

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1・2					
3・4			日本事情 I・II	日本事情 III・IV	
5・6					
7・8	日本語 1・2	日本語 7・8			
9・10	日本語 3・4	日本語 5・6			

前期：日本語 1・3・5・7 日本事情 I・III、 後期：日本語 2・4・6・8 日本事情 II・IV

日本語 1 前期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 3 名（マレーシア、ウガンダ、中国）
- ・ 使用教材： 『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』、
佐々木瑞枝他 The Japan Times
- ・ 概要：

本講義では、テキスト中心に各課のテーマに沿った内容を扱った。授業の流れとしては、まず学習する課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、会話練習や聴解、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学生活に慣れること、そして大学生活をしていく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目標とした。そのためクラスでの活動は、留学生が実際に遭遇するであろう場面を設定し行った。

日本語 2 後期

- ・ 担当者： 遠藤かおり
- ・ 受講人数： 2名（マレーシア、ウガンダ）
- ・ 使用教材： 『大学で学ぶためのアカデミックジャパニーズ』、
佐々木瑞枝他 The Japan Times
- ・ 概要：
本講義では、テキスト中心に各課のテーマに沿った内容を扱った。授業の流れとしては、まず学習する課のテーマに関する予備知識を確認し、新出語彙を説明した後、会話練習や聴解、読解、要約、作文などの練習に入るという流れである。留学生が大学生活に慣れること、そして大学生活をしていく上で必要な日本語力を身につけ、大学での様々な場面に対応できることを目標とした。そのためクラスでの活動は、留学生が実際に遭遇するであろう場面を設定し行った。

日本語 3 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（マレーシア1名、韓国2名、中国5名）
- ・ 使用教材： 『パパとムスメの7日間』 館ひろし、新垣結衣主演 DVD
TBS テレビ、及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。特に本教材では、学校、家庭そして会社という場面によって違う、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく深く日本語及び日本社会を理解することを目的とした。学生の言葉や会社での地位による待遇表現の使い分け等を確認し、また話し合いを行った。

日本語 4 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 10名（中国5名、韓国3名、マレーシア1名、ウガンダ1名）
- ・ 使用教材： 『ハケンの品格』 篠原涼子主演 DVD フジテレビ映像企画部
及び 視聴用自主作成補助教材
- ・ 概要：
生教材を使うことよって、より現実に近い日本語を学ぶことを目標とした。

特に本教材では、会社における様々な場面を通して、生きた「日本語」と、コミュニケーションに必要な非言語の要素（表情・声・動作）にも注目し、ストーリーを理解するだけでなく細部の日本語及び日本社会を理解することを目的とした。各時間後にドラマについて話し合う「対話の場」を設け意見交換をした。最終課題は次期学習者に対する推薦コピー（ドラマの見所、学ぶポイントを短くまとめる）を作成した。

日本語 5 前期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 受講人数： 7名
(韓国1名、中国4名、ウガンダ1名、インドネシア1名)
- ・ 使用教材： 「大学・大学院 留学生の日本語 - 論文読解編」アカデミック・ジャパニーズ研究会 アルク、論文、新聞・雑誌の記事、広告 他
- ・ 概要：
大学生活においてレポート・論文は勿論のこと、様々な文章を書く機会が多い。そのための表現力（語彙力・文法力・文章構成力）を身につける。その基礎として異なったタイプの文章の読解演習を入口として、「読む」能力を向上させると共にそれを支える「書く、話す、聞く」の四技能全てを伸ばす様々なタスクをピアワークを通して行った。最終的には自分の思いや考えを短い文の中で最も的確に表現する手段として①自国②徳島大学または母国の大学③徳島の3つのキャッチコピーを作成した。

日本語 6 後期

- ・ 担当者： 大石寧子
- ・ 人数： 9名
(韓国3名、中国4名、ウガンダ1名、インドネシア1名)
- ・ 使用教材： 「ピアで学ぶ大学生活の日本語表現」大島弥生他 ひつじ書房、「日本語Eメールの書き方」築 晶子他 The Japan Times 他
- ・ 概要：
大学生活で必要な「小論文作成」を最終目標とした。論文の書き方の前に、短い文の中に必要最低限の情報を盛り込む練習として「メールの書き方」を学習した。お願い・誘い・お詫び・断りなどをテーマにし、作成上のルール、構成、添付方法なども含めて学び、宿題の提出を実際にメール添付の形で毎

回実施した。その後小論文の作成を目標とし、マッピングやピアワークでテーマを決め、それ以降もクラスのメンバー、日本人学生、地域日本人とのピアレスポンスを通して論点の絞り込みを行い、書き進めていった。またデータの1つとして、アンケートの作成・アンケートの取り方・集計・分析のしかたも学習した。

日本語7 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 7名（韓国1名、ウガンダ1名、中国5名）
- ・ 使用教材： 『視点・論点』NHK テレビ放送番組
及び 関連資料と自主作成教材
- ・ 概要：
NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」原稿を作成しそれをもとにしたスピーチ発表会を日本人の聴衆の前で行った。スピーチのテーマ以下であった。
 - ① 「日本人のお礼のことばー」
 - ② 「ベランダ、コイン、そしてお金？」
 - ③ 「ウガンダを知っていますか」
 - ④ 「音楽を聞きましょう？」
 - ⑤ 「どうして日本のカラスは・・・」
 - ⑥ 「観光誘致大作戦！」
 - ⑦ 「中道の道—その理念を解くー」

日本語8 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（ウガンダ1名、韓国2名、中国5名）
- ・ 概要：
NHK 総合テレビにて放映される「視点・論点」の中から随時ピックアップしたものを教材として使用した。国際問題、社会問題、事件等を専門家が8分間で解説し、専門家としての提言を理解することと、話し手のスピーチスタイルに関する学習を目的とした。最終課題として、「日本人への提言」原稿を作成した。授業内で扱ったテーマは以下であった。1「海岸線の今を追って」2「生物多様性1・2」3「こんな私でいたい」4「韓流と日流の

文化交流」5「大衆的個人主義」また、この間に朗読作品作成「飴だま（新美南吉作）」及び美術館プロジェクト（美術館で作品を選んで聴衆の前でミニスピーチをする）を実施した。提言のスピーチは収録し、日本人と共に視聴する機会を設けた。

「日本人への提言」の各テーマは以下である。

- ① 「コンビニでの立ち読みに関して」
- ② 「なぜ、日本ではゴミ箱を設置しないの」
- ③ 「ゴミ！決まった時間にしやがれ！」
- ④ 「ゴミ処理の違い」
- ⑤ 「幸せな国」
- ⑥ 「素直になれなくて」
- ⑦ 「筆記用具にびっくりさせられるなんてありえない！」
- ⑧ 「ドラッグストアに行きましょう！」

本授業内の美術館プロジェクトに関しては、紀要6号に詳細を報告している。

日本事情 I 前期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 5名（中国3名、ウガンダ1名、インドネシア1名）
- ・ 使用教材 アジア人財 AOTS 配信教材「就活へ！はじめの一步」
日本経済新聞 他

概要：

アジア人財コースの内容を引き継ぎ、国内外の日本・日系企業に将来就職を希望する外国人留学生に対して、就職活動を行い就職後に日本人と働くために必要な情報を提供し、同時にビジネス場面で使われる語彙の習得を含む日本語レベルの向上を目指した。

主な内容は以下の通り。

- ① 新聞の読み方
- ② 就職活動の流れ
- ③ 企業へのエントリーの仕方・記入
- ④ 採用情報の集め方
- ⑤ 会社説明会への申し込み・資料請求
- ⑥ 電子メールでの依頼
- ⑦ 社会人基礎力
- ⑧ 自己表現活動
- ⑨ 履歴書

⑩ ビジネスマナー

⑪ 業界研究

日本事情Ⅱ 後期

- ・ 担当者： 橋本 智
- ・ 受講人数： 10名（中国5名、韓国3名、ウガンダ1名、インドネシア1名）
- ・ 使用教材 アジア人財 AOTS 配信教材「仕事と家族プロジェクト」
日本経済新聞 「一歩先行く!!新入カトレーニング」 他
- ・ 概要：

前期に引き続き、日本・日系企業に将来就職を希望する外国人留学生に対して、必要なスキル、能力や日本語力のアップを目標に授業をした。加えて、将来自分の同僚になる日本人のものの考え方や生き方などを、家族と仕事というトピックを通して学んだ。

主な内容は以下の通り。

- ① 就職活動の理解
- ② ビジネスマナー
- ③ 敬語
- ④ ビジネス場面での会話の流れ・表現(電話やメールでのやり取り)
- ⑤ 社会人基礎力
- ⑥ 企業・業界研究
- ⑦ 仕事と家族
- ⑧ 新人としての会社内での振る舞い

日本事情Ⅲ 前期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（マレーシア1名、ウガンダ1名、中国4名、韓国2名）
- ・ 概要：「徳島を『食べる』プロジェクト」

吉野川が徳島独自の農業に重要な役割を果たしていることにヒントを得て、また留学生の日本の食についてさらに学びたいという要望から、実施に至った。前半は「玄米先生の弁当箱（魚戸おさむ画、北原雅紀原作）」のマンガを使い、食文化に関するトピック（食育・メタボリック・箸文化等）について理解を深めた。そして県内の様々な機関や施設に出向き、特に「食べる」ことを意識して、さらに五感を使う体験学習を進めた。

2010 年前期 講義及び体験活動	
1	給食体験（吉野川市鴨島中学校）
2	鳴門わかめヨーグルトピザ試食 （地産地消）
3	家庭料理（渭北公民館）
4	徳島食体験（徳島大学碧水寮）



日本事情IV 後期

- ・ 担当者： 三隅友子
- ・ 受講人数： 8名（マレーシア1名、韓国1名、ウガンダ1名、中国5名）
- ・ 概要：「吉野川プロジェクト」

メインテーマを「徳島を知るー吉野川の役割ー」とし、徳島のシンボル、心の故郷「吉野川」を様々な側面から学んだ。各分野の人から「吉野川」に関する話を聞く、また関連する施設を訪問する、活動を通して吉野川に関する理解を深めた。最終課題は各自テーマを見つけて調査を進め、パワーポイントによる発表を行った。

2010 年後期 講義及び体験活動	
1	吉野川の概要（国土交通省）講義
2	吉野川の農業（野田靖之氏）講義
3	観光資源としての吉野川 （徳島県西部総合県民局）
4	吉野川と住民運動（中嶋信教授）講義
5	各自調査体験学習 第十堰・河口探検・吉野川フェスティバル



2. 共通教育 共創型学習「国際交流の扉を拓く」後期 金成海、大石寧子、坂田浩

- ・ 受講人数： 25名（日本人学生18名、交換留学生4名、社会人3名）
- ・ 実施内容：

私たちのまわりの「文化」を日本人と外国人の視点からとらえ直す。受講者の対話を通して「文化」・「交流」とは何かを考える。①国際交流とは、②異文化理解とは、③共に生きるとは、をテーマに「異文化コミュニケーション」、「日本語と文化理解」、「留学生事情」をはじめ、様々な視点から講義及び体験学習を行った。授業日程および各回の内容は、以下の表のとおり。

回数	実施日	担当者	タイトル	
1	10月06日	坂田	オリエンテーション	
2	10月13日	金	徳大の留学生事情を知る	
3	10月20日	坂田	自分を知る&異文化を知る（1） ・自分を知る手掛かり（COMタイプなど） ・異文化を知る手掛かり（冰山モデルなど） ・多様な文化の中で「外国人」として生きる手掛かり	
4	10月27日	坂田		
5	11月10日	坂田		
6	11月17日	坂田		
7	11月24日	坂田		
8	12月01日	坂田		
9	12月08日	大石		異文化を知る（2）&「日本語」を知る ・外国語としての「日本語」を知る ・日本語教育が担うものは ・日本人が身につける「日本語」 ・「日本語」から生じる問題分析と対応 (ケース・スタディ)
10	12月15日	大石		
11	12月22日	大石		
12	01月12日	大石		
13	01月19日	大石		
14	01月26日	大石		
15	02月02日	大石		
16	02月09日	坂田	総括授業	